

農作物技術情報 第7号の要約

平成27年 9月30日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<ul style="list-style-type: none">○刈り遅れは品質低下の原因となるので、早めに収穫作業を行う。○倒伏した圃場では、作業速度を遅くし、刈り分けにより品質確保に努める。○日没が早まる時期なので、作業は計画的にすすめ、安全な農作業を心掛ける。
畑作物	<p>大豆: 葉の黄化・落葉が始まってきている。適期に収穫できるよう、圃場乾燥の促進や雑草の抜き取りなどの準備をすすめること。収穫前に連作圃場等ではシストセンチュウの発生がないか確認を行う。倒伏している圃場が散見されるので、刈高きの調整および収穫作業はていねいに行う。</p> <p>小麦: 小麦の播種適期となっている。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努める。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類、露地果菜類ともに、全般に低温の影響等により草勢が低下しており、障害果の発生が見られる。雨よけほうれんそう、キャベツ、レタスは気温低下により生育は緩慢に推移している。ねぎは順調な生育となっている。各品目とも病害虫の発生が見られる。</p> <p>技術対策 全般: 台風対策を万全に。 雨よけトマト・雨よけピーマン: 今後も気象経過に応じたハウスの適切な温湿度管理で草勢維持に努めるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防や害虫防除を徹底する。 露地きゅうり: 草勢維持を重点に、採光性を考慮した摘葉、不良果の早め摘果等を行う。病害虫防除は褐斑病、炭そ病、べと病を重点に行うほか、次年度へ向けた準備として資材消毒などを行うほか、キュウリホモプシス根腐病の次年度対策のために、残さ診断を積極的に行う。 雨よけほうれんそう: 年内収穫用にもう1作播種し、温度管理とべと病、アブラムシ類、ハウレンソウケナガコナダニ、シロオビノメイガ等の病害虫防除を徹底する。寒締め栽培では、品種の特性に合わせ遅れないように播種し、温度管理と病害虫防除を徹底する。 露地葉菜類: ねぎは計画的な土寄せと適期に防除を行う。キャベツ、レタスは適期収穫に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。促成アスパラガスは 5℃以下の低温遭遇時間を参考にしながら堀り上げを行う。</p>
花き	<p>りんどう: 花腐菌核病の防除、選別を徹底し、良品出荷に努める。翌年の病害虫の伝染源を減らすため、残さ処理等の収穫後の管理を行う。</p> <p>小ぎく: 病害虫防除、選別を徹底し、良品出荷に努める。来年の栽培に向け品種構成を考慮し、親株の伏せ込みを実施。伏せ込みには健全な親株の使用を徹底する。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの果実生育は、概ね平年並。中生種の果実品質は、硬度、デンプン指数は平年より低く、糖度は平年より高めとなっている。</p> <p>りんご: 台風対策を実施する。中生品種は熟期が早まることが予想されるため、適期収穫とすぐりもぎを徹底する。ふじは着色管理と併せて、つる割れ果の確認を行う。</p>
畜産	<p>牧草: 維持草地では、刈取り危険帯の時期を避け、刈取りを行う。</p> <p>電気牧柵: 次年度設置作業の省力化を考えて撤収作業を行う。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○秋の農作業安全月間実施中(9月15日～11月15日)「慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！」

次号は平成27年10月29日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆県内全域で刈取り作業が進んでいます。刈遅れは品質低下の原因となりますので、早めに収穫作業を行いましょ。
- ◆倒伏圃場では、作業速度をできるだけ遅くし、周囲と比べて品質が劣ることが見込まれる場合は刈分けにより品質確保に努めましょ。
- ◆日没が早まる時期なので、作業は計画的にすすめ、安全な農作業を心掛けましょ。

1 適期刈取りの励行

刈遅れは着色粒や胴割粒等の発生を増加させ品質低下につながります。圃場がぬかる場合は、地表面の排水により地耐力の向上に努め、早めに刈取りましょ。倒伏圃場あるいは倒伏した部分では、作業速度をできるだけ遅くし、ていねいに刈取りましょ。また倒伏していない部分など周囲と比べて品質が劣ることが見込まれる場合は、刈分けにより品質確保に努めましょ。

2 乾燥・調製の留意点 仕上げ水分は15.0%以下を徹底ましょ！

(1) 胴割れ粒の発生防止

- ・1時間あたりの乾燥速度（水分低下）は0.8%以下とし、送風温度に十分に注意ましょ。急激な乾燥や過乾燥は避けましょ。
- ・自然乾燥の場合、乾燥期間は2週間以内とし、乾燥が不十分な時は乾燥機で仕上げましょ。

(2) 粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・玄米水分15.0%以下の適正水分で粳すりを行います（肌ずれ米の防止）。
- ・ロール間隔は、粳の厚さの約1/2（0.5~1.2mm）に調節ましょ。脱ぶ率は85%を基準（80~90%）とましょ。

(3) ライスグレーダー粒選別

- ・出荷製品となる玄米は、LL（1.9mm）の篩い目を使用し、整粒歩合80%以上に仕上げましょ。

3 農作業安全

日没が早まる時期ですので、計画的に作業をすすめ、農作業安全を心掛けましょ。

- ア 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意ましょ。
- イ コンバインにワラ等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行いましょ。
- ウ 夕方に事故の発生が多いので、焦らず、慎重な作業を心がけましょ。
- エ 反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止ましょ。

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

無理するな 疲れたときには NO！作業

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ **大豆** 生育の早いところでは葉の黄化・落葉が始まっていますので、圃場観察をこまめに行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。また、台風の動向に注意し、収穫作業に支障が出ないように排水対策を行いましょう。シストセンチュウの発生が報告されています。大豆連作が続いている圃場や湿害を受けていないにも関わらず黄化が見られる圃場では注意が必要です。
- ◆ **小麦** 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

大豆

1 生育の状況

生育の早いところでは黄化、落葉が始まっており、10月上旬以降に収穫適期になると見込まれます。落葉や成熟の状況は、圃場によってかなりバラツキが見られます。

今年度、生育前半は干ばつのため生育が抑制気味でしたが、開花期以降は大豆の生育が旺盛で、倒伏している圃場が散見されます。また、8月中下旬の多雨および9月中旬の降雨により、ぬかるんでいる圃場も目立ちます。

県中部の複数の大豆圃場でシストセンチュウの発生が確認されました。連作が続いている圃場、あるいは抵抗性弱品種(シュウリユウ、コスズ、すずほのか、青丸くん他)、えだまめの作付履歴のある圃場などでは注意が必要です。

2 収穫作業のまえに

(1) 台風対策

この時期は台風が発生しやすいので、気象情報を確認し状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術内容の詳細については、H27.9.9発行の「号外 台風対策」を参照してください。

(2) シストセンチュウ被害の確認

収穫前に圃場を観察し、湿害生育不良株(地上部が退緑、黄化等)が部分的に局在し、畦に沿って広がっていないかなどを確認します。湿害を受けていないにも関わらず、このような症状が見られる場合はシストセンチュウの可能性あります。株を引き抜いてみて、シスト(卵の詰まった殻)の有無を確認してください。

発生が確認された場合は、汚染土壌の拡散を防止するため農業機械等の洗浄の徹底するとともに、汚染程度の高い圃場の収穫は後に回します。また、次年度は大豆以外の作物を作付することが対策の基本となります。

発生状況・確認方法および防除対策の詳細はH27.9.29発行の平成27年度 病害虫防除速報No.11 大豆編-1を参照してください。

(3) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。また、イチビなどは種子発生量が極めて多いので確実に搬出しましょう。

(4) コンバインの清掃・調整

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。

また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

倒伏した大豆を収穫する場合、リフターと呼ばれるオプション部品をコンバインに装着することにより収穫ロスが低減できることがあります。

(5) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、圃場の様子を踏まえた上で、刈取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期収穫の第一歩は、成熟期を正確に判定することです。成熟期は次の2つから判断します。

ア 圃場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10日後	30日後	20～23日
ユキホマレ	7～10日後	20～25日後	10～18日
ナンブシロメ、スズカリ	10日後	20～25日後	10～15日
リュウホウ	10日後	20日後	10日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

※刈遅れると「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすくなり、「青丸くん」は子実の色抜けが生じることから、収穫適期間になったら速やかに収穫します。

※シュウリュウは成熟後、やや裂莢しやすいので収穫適期に達したら速やかに収穫しましょう。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は50%以下

茎水分が50%を超えると、こぎ胴で茎が揉まれ茎汁が発生し、汚損粒の発生原因となります。茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。このため、青立ちした株は必ず抜き取ってください。

イ 収穫時の子実水分は18%以下

収穫時の子実水分は、損傷粒の発生に大きく影響します。子実水分が20%以上と高すぎる場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下と低すぎる場合は、裂傷や割れ豆などの損傷粒が多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前10時過ぎ～午後5時頃までが目安です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒(皮切れ粒)は、収穫前に大豆の生理的要因により種皮が部分的に裂けて生じるもの(例:莢数不足あるいは刈遅れによる過熟が発生するもの)と、高温通風など乾燥調製時の急激な乾燥によって生じるものに大別されます。しわ粒は、子実のへその反対側の子葉組織と種皮がギザギザになる「ちりめんじわ」と、種皮が吸湿により亀甲状に隆起する「亀甲じわ」に大別されます。「ちりめんじわ」は主に、生育後半の栄養凋落が激しいほど発生しやすく、この時期の栄養状態の改善が対策となります。「亀甲じわ」は子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因で生じますので、刈遅れを避けることが対策につながります。被害粒の発生時期や種類を見極めて、発生防止に努めてください。

5 その他

(1) 紫斑病対策

成熟期以降、刈取りが遅れると紫斑粒が増加しますので、刈遅れを避けることが重要です。

また、ビーンカッターや手刈りで収穫した場合、速やかに脱穀・乾燥を行いましょう。島立てやハウス乾燥中の刈株も、朝露や湿気などにより紫斑粒が徐々に増加することが知られています。

小麦

1 小麦の播種適期を迎えています

例年、播種が遅れ生育量が足りないまま越冬する小麦圃場が多く見受けられます。表2を参考に適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。

また、26年産、27年産と春期に降水量が少なく干ばつ傾向が見られました。干ばつ被害を軽減させるためには、根張りをよくすることが重要です。根張りを良くして、干ばつ被害を軽減させる方法としては、①晩播を避ける、②浅播きを避ける、③過湿条件では播種を行わない、④深耕する、⑤有機物を施用する、⑥踏圧を適切に行う、などが挙げられます。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月.日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

ナンブコムギは、縞萎縮病に弱いいため、例年縞萎縮病の発病が見られる圃場で作付けをすると、播種時期の気温が高いほど翌春の発病程度が高まり、減収します。このような圃場でやむを得ず連作をする場合には、適期内でできるだけ晩播とすることが被害軽減に有効です。しかし、適期を過ぎた晩播は根張りが劣り、湿害や干ばつ害を受けやすくなりますので注意して下さい。

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

(1) 播種適期を守るのが基本ですが、圃場条件が良くない場合、無理に播種しても出芽不良を招きますので、その場合は作業を見合わせましょう。

(2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう(表3)。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量(kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80%(全面全層播は64%)として求めた

3 排水対策を万全に

水稻の刈取り後、小麦を作付けする圃場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう(→必ず排水路につなげて下さい)。

圃場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

次号は10月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は
秋の農作業安全月間です**

無理するな 疲れたときには NO! 作業

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全に
- ◆ 露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底、次年度へ向けた対策実施
- ◆ 雨よけトマト 保温の徹底と裂果の発生防止
- ◆ ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除の徹底
適期播種と適切な温度管理による品質向上 (寒締めほうれんそう)

1 生育概況

- (1) 8月下旬からの降雨、低温の影響により、全般に草勢の低下や生育抑制が見られるほか、病害虫の発生も増加傾向です。
- (2) 露地きゅうりは、極端な低温と降雨によりべと病・炭疽病、褐斑病等の発生が急増し、収穫終了となる圃場が増えています。
- (3) 雨よけトマトは、気温低下と日照不足により果実肥大や着色が停滞しているほか、裂果の発生が増加しており、出荷量は減少傾向です。うどんこ病やコナジラミの発生が増加しています。また、トマトサビダニの被害も散見されています。
- (4) ピーマンは雨よけハウス・露地ともに草勢の低下と気温低下に伴い果実肥大が遅れる傾向にあり、特に露地栽培では赤果や黒変果の発生が多くなっています。斑点病の発生が増加し、タバコガの被害は減少しています。
- (5) 雨よけほうれんそうの生育は、気温低下とともに緩慢になり、日照不足等により軟弱傾向です。病害虫では、白斑病、アブラムシ類、シロオビノメイガ、ホウレンソウケナガコナダニの被害が一部で見られます。
- (6) ねぎは概ね順調に生育し、収穫が継続して行われていますが、急激に太り、外皮が裂ける症状が一部の地域で発生しています。病害虫では、軟腐病、べと病、さび病、黒斑病、葉枯病が発生し、ネギハモグリバエが一部の地域で見られます。
- (7) キャベツは低温の影響で生育が緩慢です。病害虫では、黒腐病、軟腐病、べと病、根こぶ病、ウワバ類、ヨトウガの発生が見られます。レタスの生育は気温低下により緩慢です。病害虫では、べと病、軟腐病、アブラムシ類、オオタバコガが一部で見られます。

2 技術対策

(1) 台風対策

この時期は台風が発生しやすいので、今後とも気象情報を確認し状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術内容の詳細については、H27.9.9 発行の「号外 台風対策」を参照してください。

(2) 露地きゅうり

気温も低下していることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、草勢維持を図りましょう。

8月下旬以降、べと病・炭疽病、褐斑病等の蔓延により枯れ上がる圃場が増加傾向です。多発圃

場では、収穫残さや支柱、番線、灌水チューブなどに付着した病原菌が翌年の発生源となりますので、栽培終了後は速やかに残さの片づけや資材の消毒を実施しましょう。

また、本年度株が急に萎れる症状が見られた圃場では、収穫終了後速やかに根を掘り上げて、ホモプシス根腐病の感染がないか確認しましょう。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの指導機関に連絡し、残さ診断を受けることをお勧めします。

今年萎れが見られていない圃場においても、被害リスクの早期把握のため、残さ診断を積極的に行い次作に備えましょう。



写真1 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(3) 雨よけトマト

急激に気温が低下した影響で、裂果の発生が増加しています。

今後、さらに発生しやすい環境が続くことから、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、防除の徹底に努めてください。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉処理の方法は、10月初めまでに写真のように葉を全て摘んだ後、霜が降りる前につる下げし、不織布でべたがけします。低温や霜の影響が回避され、収穫可能な果実が増加するとともに、裂果の発生を減らすことができます。



写真2 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする

(4) ピーマン

雨よけ栽培では、夜間の保温により生育温度の確保に努めますが、夜間湿度の上昇に伴い灰色かび病の発生が懸念されるので、防除を徹底しましょう。

全体的に赤果や黒変果、ひび割れ果の発生が増えています。特に下垂している枝に着生している果実は早めに除去し、草勢維持に努めて下さい。

また、露地栽培では、斑点病の発生と腐敗果が増加する恐れがありますので、降雨前後に殺菌剤を散布して発生低減を図りましょう。

(5) 雨よけほうれんそう

年内に収穫するため、もう1作播種することを検討しましょう。低温伸長性の良い品種を選択し、ハウスの開け閉め等による温度管理を適切に行い、年内に確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生が多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合でも、日中は積極的に換気を行い、べと病を発生させない条件にしながら、殺菌剤の予防散布も行いましょう。

また、ハウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。近年は夏期に被害が見られる圃場もあり、発生が周年化しています。今年作で被害があった圃場では、早期に殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が芯葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、アブラムシ類の発生やシロオビノメイガの食害が見られます。アブラムシ類は効果の高い薬剤で防除します。シロオビノメイガの幼虫は最初、芯葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意



写真3 シロオビノメイガによる食害 (矢印の部分に幼虫がいます)

して観察し、防除が遅れないようにしましょう。

萎ちょう病等の土壌病害が多く発生した圃場では、次年度の対策として土壌消毒を実施しましょう。初夏に土壌消毒を行う従来の方法以外に、作付終了後の晩秋に土壌消毒を行う方法があります。具体的な方法については、最寄りの農業改良普及センター等にご相談下さい。

作付け終了後は、来年の施肥管理を適正に行うため、土壌診断を受けましょう。

(6) 露地葉茎根菜類

ア ネギ

最終土寄せから収穫までの日数が長くなると、品質低下につながります。10月収穫は収穫の30日前を目安に、軟白部の伸長肥大を確認しながら、気象情報等を参考にして計画的に作業を行いましょう。

また、収穫間際の病虫害発生も、品質低下につながります。早めの防除を心がけ、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残さの処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかつたものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

また、来年に向けて土壌診断の実施や堆肥の施用等による土づくりを行いましょう。

(7) 冬春野菜

ア 寒締めほうれんそう

ハウス栽培では9月下旬から10月中旬までが播種時期です。県内の各地域によって気象条件が異なるので、品種の特性に合わせ適期に播種し、次のことに留意して管理しましょう。

過剰な保温により生育が進むと、寒締めを行う前に収穫サイズに達してしまいます。一方、温度が低すぎると生育が大幅に遅れ、収穫期が遅くずれ込んでしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて、適切な温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

冬期間は、大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすい環境を整えておくとともに、雪の重みに耐えられるよう補強用支柱や番線、筋交いを設置する等の対策を講じ、ハウスを守りましょう。

イ 促成アスパラガス

気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。台風による倒伏等で、茎葉が傷まないようにしましょう。

また、根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の低温遭遇時間を参考にす等、適期の掘り上げを心がけましょう。詳しくは平成18年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の掘り取り時期」を参照して下さい。

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

無理するな 疲れたときには NO！作業

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 台風対策 排水・倒伏対策や施設の保守点検を万全に行いましょう。
- ◆ りんどう 花腐菌核病防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょう。
- ◆ 小ぎく 健全な親株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

晩生種は昨年と比べ早い開花となり、出荷も終盤となっている地域が多くなっています。

病害虫では花腐菌核病の発生が始まっているほか、葉枯病、黒斑病、リンドウホソハマキの発生が増えています。ハダニ類については依然発生が続いている圃場も見られています。

2 台風対策

圃場に水路などからの水が入らないよう土嚢などで対策を行うとともに、排水路の点検を行い、排水しやすいよう整備してください。

強風による折損や倒伏の恐れがありますので、支柱やネットの強度を確認し、補強してください。また、ネット上げが不十分な場合、茎上部が風で折れることがありますので、適宜引き上げてください。

冠水や土砂が流入する等の被害が発生した圃場では、できるだけ速やかに事後対策を実施します。長時間圃場に滞水しないよう速やかに圃場の外へ排水するとともに、倒伏した畦は早めに起こし、通路や畦の上にたまった汚泥はできるだけ取り除きます。また、折損があった茎葉は被害部分を取り除き、病害の発生を抑えるため殺菌剤を散布します。

3 病害虫防除

(1) 花腐菌核病

全域で発生が見られています。花腐菌核病は花卉から感染します。蕾から花卉が見えている品種は花蕾部への防除が必要です。降雨が続く場合は散布間隔を短くし防除してください。また、発病がみられた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。

(2) 褐斑病

発生が見られた圃場では、翌年の伝染源を減らすため、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。

(3) リンドウホソハマキ

発生が続いており、茎への侵入による被害の発生がみられます。定植一年目の圃場でも被害が発生する場合があります。残茎葉の折り取りを確実にし、圃場外で処分し、越冬する幼虫を減らしましょう。

(4) ハダニ類

越冬成虫は薬剤が効きにくい事例が見られます。圃場をよく観察し、越冬成虫がみられた圃場では気門封鎖型の薬剤を利用し防除します。



写真1 定植年のリンドウホソハマキ被害

(5) アブラムシ類・アザミウマ類

開花中～開花後に特に増加します。これらの害虫は、ウイルス病を媒介する恐れがあることから、収穫後の残花部分は確実に折り取り発生を抑えます。極晩生種でも発生が広がるので薬剤散布に努めます。

4 収穫後の管理

- (1) 収穫後の圃場は病虫害防除がおろそかになりがちで、病虫害が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。
- (2) 収穫後は花の着いた茎の部分を折り取り、病虫害防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。
- (3) 茎葉の折り取りや刈払いは、ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから行います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理な折り取りは株を傷めますので、その場合は春に折り取るようにします。
- (4) 翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草防除を行うことが効果的です。

小ぎく

1 生育概況

9月咲き品種は昨年よりやや早い開花となっており、概ね終了している地域が多くなっています。病虫害では白さび病、ハダニ類の発生がみられています。また、オオタバコガについては減少してきているもののフェロモントラップでの誘殺が続いています。

2 台風対策

りんどうと同様に、圃場に水路などからの水が入らないよう土嚢などで対策を行うとともに、排水路の点検を行い、排水しやすいよう整備してください。また、強風による折損や倒伏の恐れがある場合は、支柱やネットの強度を確認し補強してください。

きくの根は過湿に弱く、多湿条件下では根腐れ等の障害が発生しやすくなります。冠水した場合は、長時間圃場に滞水しないよう速やかに排水するようにします。また、倒伏した畦は早めに起こし、茎の曲がりを防止します。折損があった茎葉は被害部分を取り除き、病害の発生を抑えるため殺菌剤を散布します。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

地域により発生が多くなっています。降雨が続くと白さび病の感染が多くなりますので、散布間隔があかないよう薬剤防除してください。また、翌年の親株にも伝搬しないよう注意してください。

(2) 害虫

害虫の発生は全体的に減少してきていますが、圃場によってハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガの発生がみられています。これから収穫になる圃場のほか、翌年の親株の防除を継続します。

4 親株管理

(1) 栽培計画

翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。そのうえで品種構成や作付面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

(2) 親株選抜

翌年採穂用の親株は、収穫前の選抜を徹底します。開花期が予定している時期に合っていること、草丈がよく伸び、本来の品種特性を備えていること、葉の枯れ上がりが少ないこと、病虫害に侵されていないこと等を確認して優良な株を選抜します。

(3) 親株の管理

翌年採穂用に選抜した親株には、収穫後、マルチを剥ぎ順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜台刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また、病害虫の持ち込み程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

ア 親株の伏せ込み

冬至芽の発生が少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みます。しかし、白さび病などの病害を持ち込むことが非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要です。

イ かき芽利用

冬至芽の発生が遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすく、株での伏せ込みより手間がかかります。

ウ 冬至芽利用

揃いが良くなり病気の持ち込みが少なくなりますが、伏せ込み作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない品種には利用できません。

品種の特性を十分に理解して、それぞれに適した増殖方法を選択してください。

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

無理するな 疲れたときには NO！作業

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第7号

果樹

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんご中生種も成熟が早まる見込み！！適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！
- ◆ 衰弱ぎみの樹にはお礼肥を！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定観測地点(表1)の果実肥大(横径)は、4～7月の干魃などにより肥大量が鈍化しましたが、開花が早かったこともあり、概ね平年並となっています。

近年、春から初夏にかけて少雨となっていることなどから、園地によっては樹の衰弱による小玉が散見されます。お礼肥を施用し、樹勢の回復を図りましょう。

(2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で硬度、デンプン指数は低めで、糖度は平年より高めの状態です(図1～3)。なお、早生品種では、開花の早まりに加え、収穫直前まで気温が高く、降水量が少なかったことから、収穫時期が早まりました。今後の気象によって、着色、熟度の進みが変わることがありますが、中生種も例年より早く成熟することが予想されますので、適切な管理、適期収穫を心がけましょう。

表1 りんごの果実肥大(横径)状況(9月21日現在)

(単位:mm)

9月21日時点の生育状況	ジョナゴールド					ふじ				
	本年(H27)	前年(H26)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H27)	前年(H26)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手町	89.9	86.0	89.6	105	100	85.0	83.1	83.8	102	101
盛岡市	92.6	92.6	88.6	100	105	89.4	86.6	82.9	103	108
紫波町	86.8	79.1	88.5	110	98	87.0	87.2	85.5	100	102
花巻市	89.2	92.5	89.6	96	100	83.0	84.7	82.0	98	101
農研センター	87.8	88.9	90.0	99	98	86.1	85.7	84.1	100	102
北上市	95.0	92.2	91.9	103	103	85.3	87.7	86.1	97	99
奥州市前沢区	86.9	87.6	88.0	99	99	84.6	85.0	85.2	100	99
奥州市江刺区	94.6	91.2	89.7	104	105	83.5	80.7	81.4	103	103
一関市花泉町	89.8	87.9	88.9	102	101	83.0	81.4	81.1	102	102
一関市大東町	88.7	93.1	88.0	95	101	84.5	85.6	83.4	99	101
陸前高田市	91.1	91.3	88.2	100	103	85.8	86.3	82.7	99	104
宮古市	91.0	91.4	91.8	100	99	85.3	83.1	84.7	103	101
岩泉町	90.8	94.4	87.7	96	104	81.5	84.0	83.9	97	97
二戸市	88.2	92.9	89.8	95	98	90.2	88.3	85.1	102	106
県平均(参考)	90.2	90.1	89.3	100	101	85.3	85.0	83.7	100	102

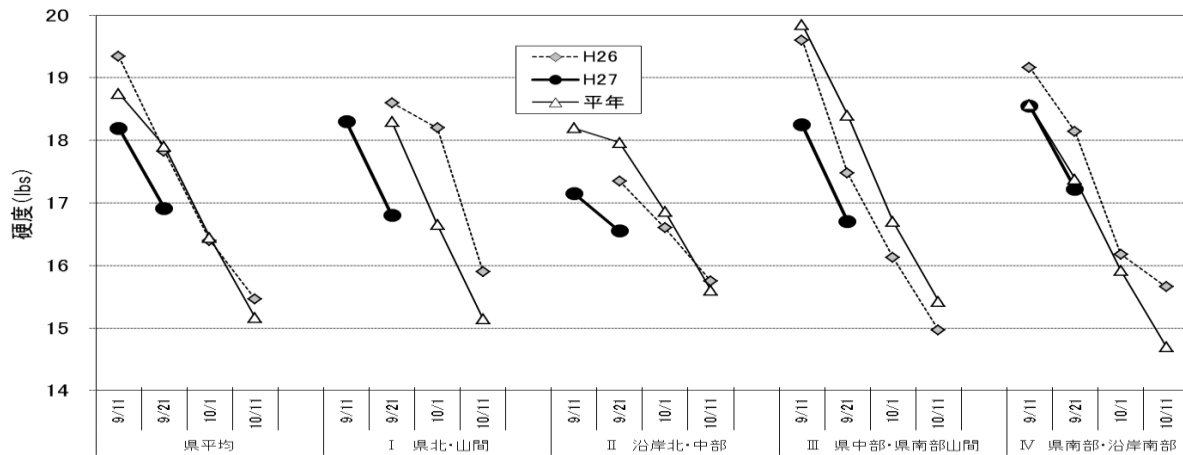


図1 ジョナの硬度の経時変化

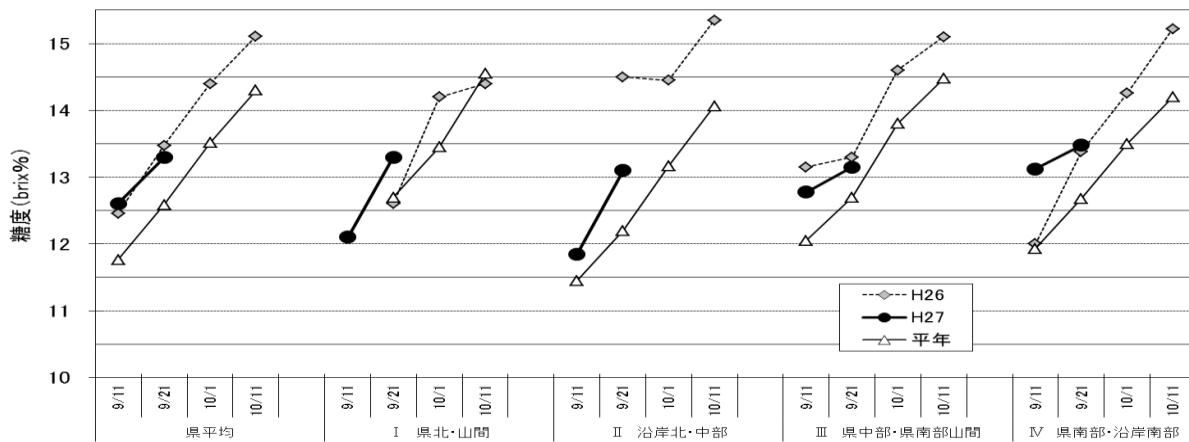


図2 ジョナの糖度の経時変化

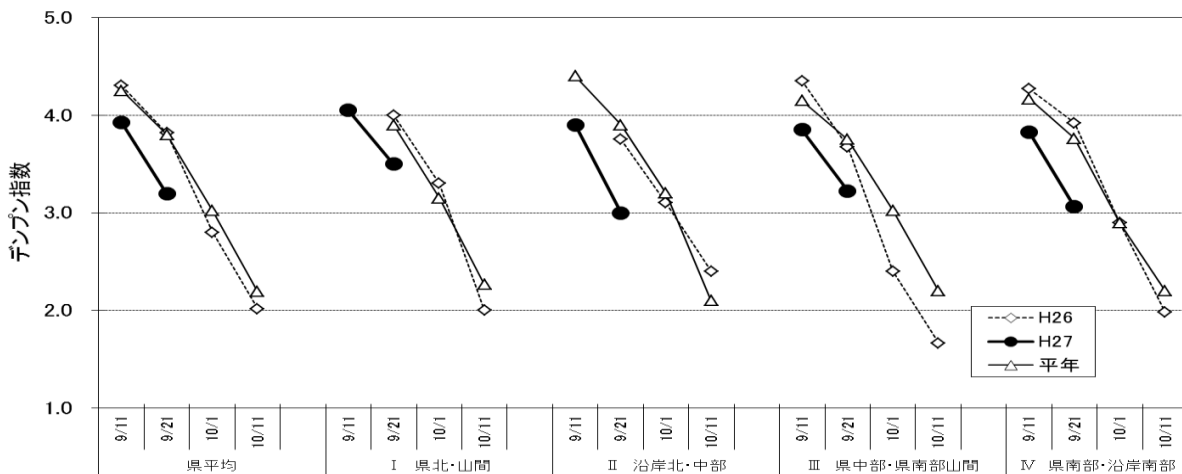


図3 ジョナのデンブン指数の経時変化

2 管理作業

(2) 中生種の管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適度な強さに葉を摘みます。

イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。

エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう（表2）。

(3) 「ふじ」の着色管理

ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適度な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。併せて、開花期が早いと発生の多い傾向のあるつる割れ果の確認も行いましょう。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

(4) 「シナノゴールド」の収穫

ア 年内販売の場合は、表2の収穫時期を目安に、果面にワックスが感じられるようになり、デンプン指数が1以下になったことを確認して収穫してください。

イ 越年販売の場合は、満開後150～160日頃を目安に収穫することで、収穫後約4ヶ月の貯蔵が可能となります。ただし、満開後150日より早く収穫するとやけ病が多くなり、満開後160日より遅く収穫すると貯蔵して4～5ヶ月ころから内部褐変が見られる場合がありますので、注意してください。

表2 中生・晩生種の収穫開始期を目安

品種	満開日 起算日数	満開日※	満開日起算 による収穫予想日	硬度 (lbs)	糖度 (%)
ジョナゴールド	145～155日	4月29日	9/21～10/1	13以上	13以上
王林	160～170日	4月29日	10/6～10/16	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	5月2日	10/19以降	15程度	15以上
ふじ	165～180日	5月1日	10/13～10/28	14以上	14以上

※ 満開日は、ジョナゴールド、ふじが定点観測地点の平均値、王林、シナノゴールドは農業研究センター観測値。

※ 収穫予想日は、満開日より機械的に算出した数値です。収穫にあたっては果実品質を確認の上、実施してください。

(5) お礼肥の施用

樹の衰弱がみられる場合には、早生・中生品種では9月下旬以降、晩生種では10月中下旬以降からそれぞれ落葉までに施肥を実施してください。施肥量は成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

無理するな 疲れたときには NO! 作業

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成27年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 牧草 刈取り危険帯の時期が近づいています。この時期は収穫や施肥を避けます。
- ◆ 獣害対策用電気牧柵 次年度設置作業の省力化のことを考えて撤収します。

1 牧草

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で気温が低下してくると、越冬のために地下部へ養分の蓄積を始めます。この時期に刈取りを行うと、牧草が再生し、養分の蓄積が不十分となるため、冬季に凍害や雪腐れ病の影響を受けやすく、越冬株数が減少するなど、翌年以降の減収につながります。

(1) 刈取り危険帯の時期

オーチャードグラスの刈取り危険帯は、日平均気温が5℃以下になる日から遡った約30日間となります。なお、年次や地域によって変動する場合がありますが、各地域における平年の刈取り危険帯の時期の目安は表1のとおりです。

表1 地域別の日平均気温(平年値)と刈取り危険帯の時期の目安

	刈取り危険帯 の時期の目安	参考
		平均気温が5℃以下となる日
奥中山	10月上旬～中旬	11月10日
盛岡	10月中旬～下旬	11月19日
久慈	10月中旬～下旬	11月23日
江刺	10月中旬～下旬	11月21日
一関	10月下旬～11月上旬	11月26日

*アメダスより

(2) 施肥

刈取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、養分の蓄積が止まり、分けつや生長が始まります。この時期は刈取りだけでなく、施肥も控えてください。また、窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

2 獣害対策用電気牧柵

飼料用トウモロコシの収穫が終わり、設置した電気牧柵を撤収する際に、来年も設置することを見越してひと工夫して撤収すると次年度の設置がずっとスムーズにいきます。

(1) 撤収器具を積極的に利用する

ワイヤーを巻き取るボビン、巻取りハンドルを準備しておくことで撤収時の軽労化が図れるだけでなく、次年度のワイヤー張り作業をスピーディに行うことができます(写真1)。ボビン、巻取りハンドルについては各電牧メーカーにお問い合わせ下さい。



写真1 ハンドルを装着したボビンでポリワイヤーを撤収

(2) 巻き取ったワイヤーを圃場ごとに区別する

電気牧柵を設置した圃場が複数ある場合は、ワイヤーを巻き取ったボビン等にどこの圃場に設置したものが分かるようにします。そうしておくことで次年度設置時に大幅なワイヤーの接続・延長、切断等が少なくなり、資材のムダを省くことができます。

(3) アース棒に目印をつける

アース棒を抜かずにそのままにしておく場合は、次年度にアース棒のありかを見失うことがないように分かりやすい目印をつけておきます（そばに棒を立てておく、アース棒の先端やリード線に目立つ色のテープ、紐を結ぶ等）。

(4) 電牧器設置の様子を記録しておく

写真2のように電牧器の設置した様子を写真等で記録しておき（携帯電話、スマートフォンも便利）、次年度にそれを参考にすると線の接続方法など迷うことなくスムーズにできます。（1）～（4）のことを実施しておく、次年度の電気牧柵の設置にかかる労力、時間が大幅に削減できます。

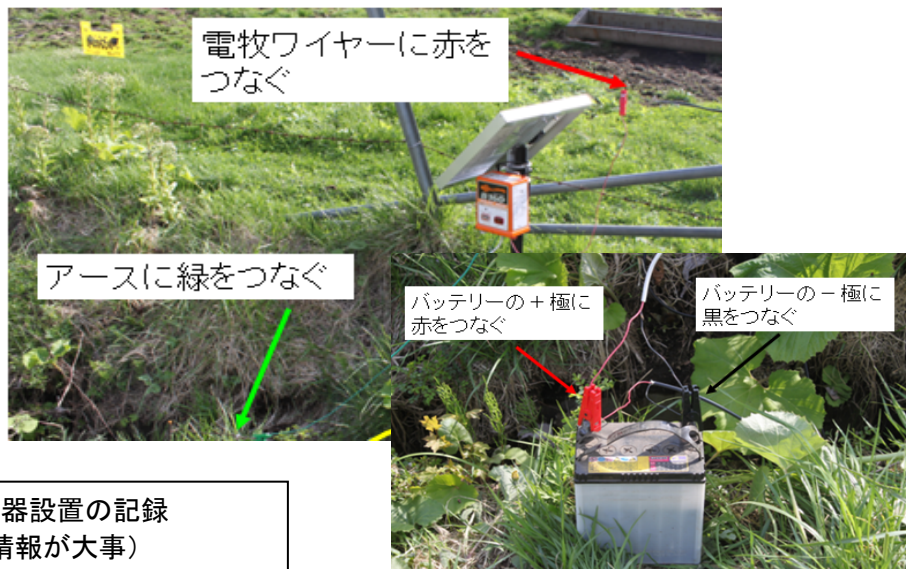


写真2 電牧器設置の記録
(白枠内の情報が大事)

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は 秋の農作業安全月間です **無理するな 疲れたときには NO！作業**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。